

① ホールファミリーケア協会 編  
『新傾聴ボランティアのすすめ  
:聴くことでできる社会貢献』

(三省堂)

今、『傾聴』という耳慣れない新しい言葉がいろいろなところで注目されつつあります。

『聴く』ということは相手の話を否定せず受け止めること。すなわち自分とは違う意見を認めるということです。簡単そうに思えますが、意外に難しく、エネルギーがいることです。

一生懸命聴くことで、多様な価値観を尊重することを学び、自己成長していけば「一挙両得」な社会貢献ができます。皆さんもこのお得なボランティアを始めてみませんか。

369.26-Shin (N.K.)

③ エミリオ・ガジェゴ 著  
『スペイン語の落とし穴』

(白水社)

この本は、著者が日本でスペイン語教育や翻訳に長年携わってきた経験から、文法書や教科書にも書かれていない「日本人の知らない本当のスペイン語」を目指しています。私達日本人がスペイン語を話すときに陥りやすい間違いを厳選した68項目のトピック(名詞、形容詞、動詞、文法・その他など)にまとめて非常にわかりやすく解説しています。各トピックの最後には練習問題が設けられています。初級者から上級者まで、そして現場でスペイン語を教える先生も利用できる内容です。

860-Gal (S.S.)



② 清ルミ 著  
『優しい日本語：英語にできない  
「おかげさま」のころ』

(太陽出版)

何気なく書名に目を向けると、日本語の入門書と勘違いしてしまいそうな本書。まえがきには外国人が受けた日本語の印象を、つかまえたと思った途端にスルリと逃げる女性のような存在でもあるらしいと書かれています。日本語は英語に比べて理論的でないと指摘される事がありますが、著者はポジティブな視点から日本語を見直してみたいと述べています。本書では「わざわざ」や「おかげさままで」のような、基本的に英語には無い表現に対して、なるべく近い英語を紹介しながら日本語の素晴らしさを再認識させてくれます。これからも大切に日本語を使って行こうと思わせてくれる一冊です。

810.4-Sei (T. F.)

④ 田尻芳樹 [ほか著]、林文代 編  
『英米小説の読み方・楽しみ方』

(岩波書店)

本書は、19世紀から20世紀後半に書かれたイギリスとアメリカの小説を取り上げ、その読み方・楽しみ方を解説しています。5人の研究者が小説の他に映画化された作品も加えて、様々な視点から楽しみ方に迫っていきます。小説の面白さを語りながら小説の読み方とはどういうものか、小説を読むことで何が得られるかといった問題に関わっていき、文学研究の方法につながる内容となっています。

コンラッド、フォークナー、アラン・ポー、キプリング、カズオ・イシグロなどの作品について自分とは違った視点からの味わい方や楽しみ方を知ることができ、読書に役立つお奨めの本です。

930.26-Eibe (F.O.)